

## 2. トピックス

### 輸出から投資に移るアジアの成長

本ペーパーでは、中国、インドを除くアジア 8 か国（韓国、台湾、タイなど）の実質 GDP の内訳項目を統合することにより、これらの国々の需要項目の特徴について調べてみた。

その結果、①消費の前年比寄与度は過去 5 年間ほとんど 2% と横這いであること、②かつては 1%～2% 近くあった純輸出の寄与度が最近ではほとんどなくなっていること、③純輸出の代わりに民間投資や公共投資などの総資本形成（以下「投資」という）の寄与度が高まっていること、が確認できた。実質 GDP の前年比伸び率は約 4% とここ数年ほとんど変わらないが、需要項目別には、外需から内需への変化が進んでいることになる。

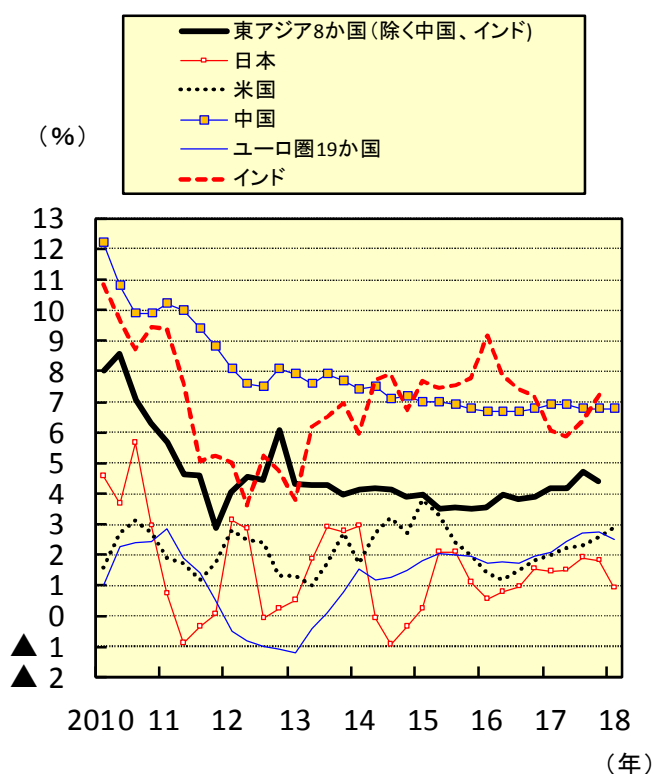
#### （1）はじめに

図 1 は、世界主要国・地域の実質成長率（前年比変化率）を並べたものである。

最も伸び率が大きいのは中国で、2010 年には前年比で 12% を超えていたが、最近では 6% 台に鈍化してきている。インドも、2010 年には 10% を超えていたが、リーマンショックの影響で一時 4% を割り込んだ。その後、2016 年には不正資金撲滅のための高額紙幣の流通停止などの影響で一時成長率が鈍化した。足許では伸びを高め 7% 台の成長率になっている（10-12 月期 +7.2%）。

これに対し、中国とインドを除くアジア 8 か国（韓国、台湾、タイ、香港、インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン）の成長率は、2010 年は 7%～8%、

図1 主要国の実質GDP(前年比)



(出所)各国統計

12 年は 3%と振れを伴いつつもその後は比較的高い成長率を維持しており、2013 年以降は 4%前後の水準を安定的に維持している。

アジア 8 か国の経済成長率がこのように比較的安定しているのは、一つには国の数が 8 か国もあるため一部の国の一時的な変化が薄められるという事情もあるが、もう一つには以下にみるように、個人消費の伸びが安定しているなか、輸出の押し上げ効果がなくなった分を投資の増加で補ってきたことがある。

## (2) 主な需要項目の動き

図 2 は、アジア 8 か国の実質 GDP の前年比伸び率を主な需要項目別に寄与度分解したものである。

この図から明らかなことの第一は、個人消費の前年比寄与度が 2%前後で安定した伸びを続けていることである。これらの国々では、総じて平均年齢が若いため、自動車、家具などの耐久消費財の需要が消費の安定的な拡大に寄与しているといわれている。

第二は、輸出から輸入を引いた純輸出が、2013 年から 14 年には 1%~2%程度実質 GDP を押し上げていたが、2015 年から 16 年にかけてはマイナスになり、その後はほとんどなくなっていることである。

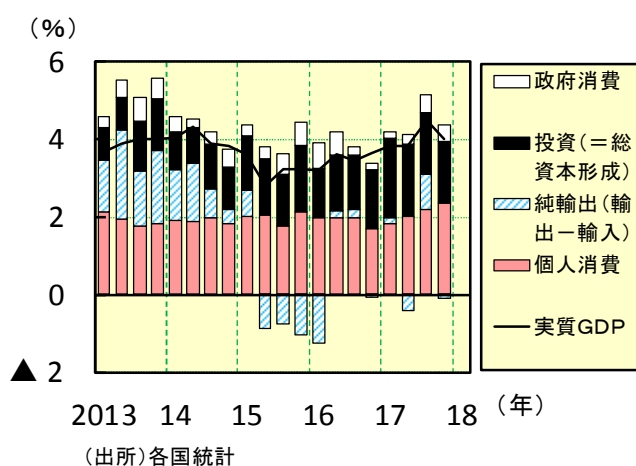
第三は、2013 年には 1%前後であった投資の影響が輸出の寄与度の低下を補う形で増加していることである。

以下では、輸出、投資の順にもう少し詳しく考えてみた。

## (3) 純輸出の影響がなくなった理由等

図 3 は、純輸出を輸出と輸入に分けて、GDP への寄与度を図示したものである。

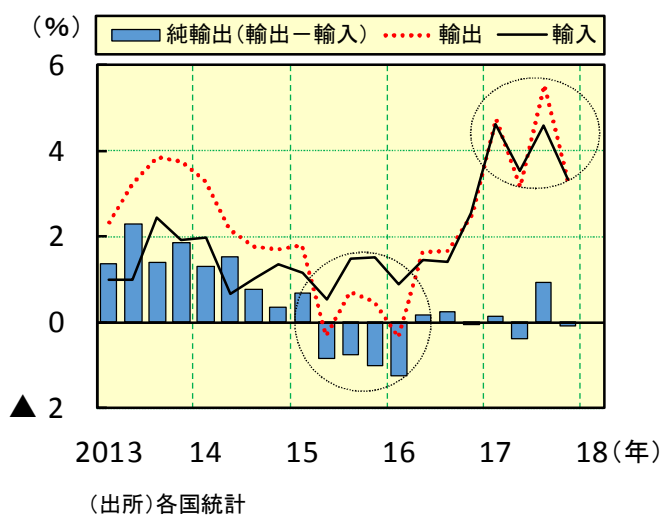
図2 アジア8か国の支出項目別GDP(前年比寄与度)



2013 14 15 16 17 18 (年)

(出所)各国統計

図3 アジア8か国の輸出入(GDPへの寄与度)



2013 14 15 16 17 18(年)

(出所)各国統計

2013年に純輸出が最大2%近く全体を押し上げていたのは輸入の伸びを輸出の伸びが上回っていたためであるのが見て取れる。ところが2015年から16年には輸出の伸びが大きく縮小し、一時はマイナスになるほど落ち込んだ。これは、原油価格の急落によってインドネシア、マレーシアなどの輸出が減少したことに加え、中国経済が減速したためであった。原油価格は、2014年央には1バレル当たり100ドル近辺であったが、米国のシェールオイルの増産を主因に16年初には30ドル台に低下した。

ところが、2016年後半頃からは、輸出の増加率が4%台に拡大するとともに、輸入もほぼ同じ4%前後のペースで拡大した。輸出の伸び率が拡大したのは世界的な景気の拡大によるものであるが、輸入も大きく伸びを高めた。なぜ輸入が大幅に増加したかということ、理由は二つある。一つは原油価格の反騰、もう一つはインフラ・設備投資関連資材の輸入が増加したことである。

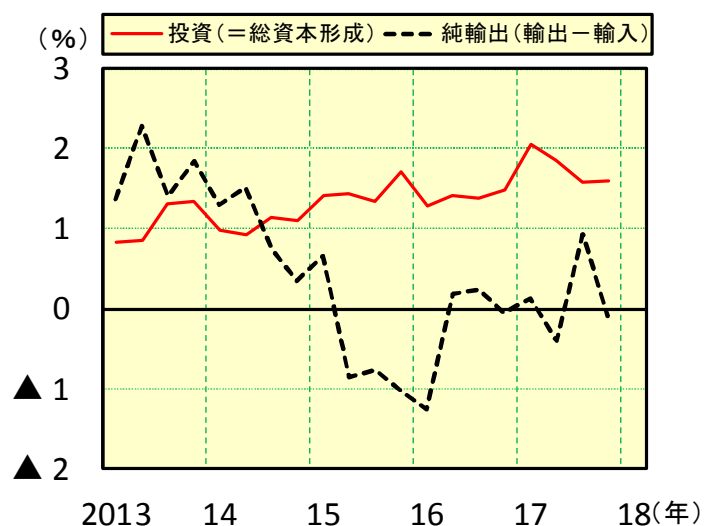
2017年の輸入額（通関ベース）を国別、品目別にみると、鉱物燃料や石油製品の輸入額が、マレーシアは前年比+43.8%、韓国は+34.5%、フィリピンは+32.9%、インドネシアは+31.6%、タイは+30.4%と大幅に増加した。

また、台湾では金属が前年比+21.9%、インドネシアではセメントが+20.8%、金属が+20.2%、タイでは中間財が+18.7%と大幅に増加した。これらの国々では、産業基盤を強化するための公的当局によるインフラ投資関連や、民間企業の設備投資に必要な資材の輸入が大きく増加した。

図4は、純輸出と設備投資（総資本形成）の寄与度を並べたものである。

純輸出（輸出－輸入）の寄与度は、最近ではゼロ%近辺に縮小している。こうしたなか、設備投資の寄与度は、2013年は約1%であったが、2015年頃から1%を少しずつ上回るようになってきている。こうした背景には、純輸出の景気押し上

図4 アジア8か国の純輸出、総資本形成（GDPへの寄与度）



(出所)各国統計

げ効果がなくなったため、公的部門がそれを補おうとしているケース（マレーシア、タイ等）と、いまだインフラ投資が十分でないため、鉄道・港湾・空港などの大型公共投資や、海外企業による生産拠点の新設が盛んに行なわれているケース（インドネシア、フィリピン）などがある。

（2018年5月16日 京都総合経済研究所 小堀 潔）